

4.平成 28 年度 ND80/90/2010 ADL 追跡委員会

ND2010 年対象者の日常生活動作能力 (ADL) と生活の質 (QOL) 調査について

ND80/90/2010 ADL 追跡委員会

研究分担者 早川 岳人 (立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究プロジェクト 教授)

研究分担者 岡山 明 (生活習慣病予防研究センター 代表)

研究分担者 尾島 俊之 (浜松医科大学医学部健康社会医学講座 教授)

研究協力者 藤内 修二 (大分県福祉保健部健康対策課 健康対策課長)

研究協力者 宮川 尚子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生部門 特任助教)

事務局

研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)

研究協力者 近藤 慶子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生部門 特任助教)

研究協力者 佐藤 敦 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生部門 大学院生)

研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)

研究分担者 岡村 智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)

研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生部門 教授)

1.はじめに

わが国における循環器疾患等生活習慣病予防対策を立案するにあたって、高齢者の日常生活動作 (ADL) の低下要因を明らかにしていく必要がある。これまで NIPPON DATA80 (ND80) ならびに NIPPON DATA90 (ND90) については、調査時、65 歳以上の高齢者に対して日常生活動作に関する調査を全国の保健所のご協力のもと実施してきた。NIPPON DATA2010 の調査対象者についてもベースラインから 5 年毎の ADL 追跡調査を研究計画に掲げているが、NIPPON DATA2010 調査は、2010 年の循環器疾患基礎調査時に本人より取得していることから、発症等の追跡調査と同様に、ADL 調査も対象者本人への郵送調査が可能である。昨年度は 5 年目の ADL 追跡調査年にあたり、調査時 70 歳以上の方を対象に、基本的日常生活動作能力の状況、手段的日常生活動作能力の状況について郵送調査を実施した。集計結果を報告する。

2. NIPPON DATA2010 5 年目の ADL 追跡調査

調査対象者：NIPPON DATA2010 の 5 年目の追跡調査において、調査時 70 歳以上 (ベースライン時 65 歳以上) の生存者対象

調査項目：大腿骨頸部骨折既往、現在の施設入所所有無、現在の入院の有無、介護保険制度利用状況、基本的日常生活動作能力 (食事、排泄、着替え、入浴、歩行) の状況、手段的日常生活動作能力 (都老研 13 項目) の状況

調査期間：2015 年 10 月から 12 月にかけて

調査方法：郵送調査 上記の調査項目を毎年の発症追跡調査票に組み込んだ。

未回収分や返送された調査票の記入が不完全なものは電話で問い合わせ

調査対象者数・回収数：1011/1031 (98.1%)

3. 基本集計結果

	男性		女性		合計	
	N	%	N	%	N	%
回答者数(一部無回答の者、死亡18名も含む)	454		557		1011	
施設入所中	7	1.5	5	0.9	12	1.2
入院中	6	1.3	11	2.0	17	1.7
介護保険サービスの利用あり	37	8.1	66	11.8	103	10.2
大腿骨頸部骨折あり	8	1.8	15	2.7	23	2.3
「あなたは食事、排尿・排便、着替え、入浴、歩行の際、他人の手助けを必要としますか」 「はい」	20	4.4	24	4.3	44	4.4
食事	7	35.0	8	34.8	15	34.9
排尿・排便	12	60.0	10	43.5	22	51.2
着替え	13	65.0	12	52.2	25	58.1
入浴	18	90.0	17	73.9	35	81.4
歩行	15	75.0	18	78.3	33	76.7
手段的日常生活動作能力(都老研13項目) 「いいえ」						
「バスや電車を使って一人で外出できますか」	33	7.3	60	10.8	93	9.2
「日用品の買い物ができますか」	23	5.1	40	7.2	63	6.2
「食事の用意ができますか」	50	11.0	39	7.0	89	8.8
「請求書の支払ができますか」	22	4.8	38	6.8	60	5.9
「銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか」	33	7.3	39	7.0	72	7.1
「年金などの書類を書けますか」	31	6.8	51	9.2	82	8.1
「新聞を読んでいますか」	22	4.8	57	10.2	79	4.8
「本や雑誌を読んでいますか」	49	10.8	84	15.1	133	13.2
「健康についての記事や番組に関心がありますか」	44	9.7	42	7.5	86	8.5
「友達の家を訪ねることがありますか」	98	21.6	86	15.4	184	18.2
「家族や友達の相談にのることがありますか」	63	13.9	76	13.6	139	13.7
「病人を見舞うことができますか」	35	7.7	46	8.3	81	8.0
「若い人に自分から話しかけることができますか」	57	12.6	55	9.9	112	11.1

4. まとめ

調査を実施するにあたり、2015年6月にND80/90/2010 ADL追跡委員会を事務局や追跡委員会と合同で開催した。当初は、幸福感、満足感、生きがいに関する主観的なQOLやK6も候補であったが、対象者の負担や回収率を考慮した結果、前述の内容となった。NIPPON DATA2010は心臓病や脳卒中等の循環器疾患の発症を追跡するコホート研究である。日常生活動作に関する調査は5年目の2015年が最初の追跡年となった。本研究は5年間の間に日常生活動作能力が低下した者は、脳卒中や大腿骨頸部骨折既往等のADLを低下させる既往がいつ発症したのかを推測しやすい利点がある。また、介護保険制度利用状況もたずねているため、介護を受けているかどうかの視点からも分析が可能である。加えて施設入所無や現在の入院の有無も調査しており、ND80やND90におけるADL調査の限界であった在宅していない者の状況も把握することができるデザインになっている。しかし、高齢、すなわちADLやIADLの低下を理由とした追跡調査の終了希望が散見されることが追跡委員会より報告されており、今後、分析結果の解釈にはこの点に留意が必要と思われる。